

# 平和な令和に

## 平和を維持するためには

1945年 昭和20年)、戦争が終結した年の8月15日が終戦の日とされています。今年で74年目を迎え、今日まで戦争もなく、我々は平和な日々を過ごすことができている。しかし、世界では戦争・紛争が未だに存在しています。

かつて平和は「国家間に戦争の無い状態」だと考えられていました。しかし近年は「構造的な暴力」が中心的な問題として取り上げられるようになってきました。「構造的な暴力」とは、たとえ他国と交戦状態に無くても飢えや貧困など「平和」とは言えない状況に置かれていることを指し、これを原因として発展途上国が戦争に向かってしまう例が少なくありません。日本に目を向けてみると、軍備増強や米国との同盟強化によって平和を実現しようという考えも聞かれますが、周辺国で発生しているこの「構造的暴力」の解決こそが日本が取り組むべき課題と考えられます。

## 米国の財布ではありません

安倍首相は憲法9条を改正し、戦争を出来る国にしようとしています。果たして現在我が国はそのようなことが早急に必要なののでしょうか？ネットやテレビのニュースでは再三、北朝鮮の脅威が叫ばれており、イーゾアアショアやステルス戦闘機、オスプレイ等様々な兵器を購入（購入価格総額2兆5千億円）が決定しています。また一部の国会議員が戦争をして領土を取り戻すべきだと発言して問題になりましたが、一部では肯定するかのようない意見があります。皆さんはどの様に考えますか？戦争をすれば多くの犠牲者が出ます。映画の様にヒーローがいて感動のフィナーレを迎えることはありません。映画やドラマと現実の違いは違っています。

我が国にはそれよりも先に取り組むべき課題があるのではないのでしょうか？「ワーキングプア」や「子供食堂」などの言葉が生まれているように、貧富の差は目に見えて拡大しています。構造的な暴力」が国内で発生しているような状況です。また訂正はされましたが、老後に2000万円の貯蓄をするよう国民に求めるなど、年金問題も喫緊の課題です。加速度的に膨らみ続ける防衛費を社会保障費に回し、国内で起きている問題に対して早急に対応しなければなりません。

あなたの家族や親戚  
友達に自衛隊がいても過激な発言を支持しますか？



世界の紛争地域で何が  
行われているのか知ることが  
重要です。



# 若い力

第 123 号  
2019年 8月15日  
発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号  
ニッコーハイツ1003号  
JR 092-2075  
NTT092-483-1515